

テーマ

スポーツの“今”を相対化、 これからの行方を考える

適用 分野

スポーツ評論、スポーツ（バドミントン）指導



研究 名称

スポーツ史研究
バドミントン競技の指導に関する研究

氏名 所属

鷗木千加子 教授
全学共通教育センター

内容

●**特徴**： バドミントン競技の指導及び組織運営に関わりながら、「なぜスポーツが現在ようになったのか」「これからスポーツはどのようになっていくのか」について、歴史研究からのアプローチに取り組んでいる。

●**研究内容**： 現在私たちが“スポーツ”だとしているものは、決して普遍的なものではない。現在の“スポーツ”の多くは、近代という時代にその姿を現し、現在へと繋がっている。しかし、近代スポーツ史研究の成果には種目間にギャップがあるため、これまで十分な研究が進められていない種目の一つであるバドミントンに焦点を当てたスポーツ史研究に取り

組んでいる。

21世紀初頭におけるスポーツの在り方の変化は、未来の“スポーツ”の在り方の構想につながる。そのため、先ずそのベースにあるスポーツの国際統括の形成についてバドミントンを中心とした学術的研究に着手している。関連して、バドミントンの史資料の収集をしている。また、バドミントンの指導は学生を中心に、社会人、ジュニア、障がい者など幅広く実施。更に、全日本学生・関西学生連盟、兵庫県協会の運営に関わっている。



写真左：KONANスポーツクラブ(ジュニアバドミントン)での活動風景

写真上：右3本が初期のバドミントンラケット、左5本はバドルドア&シャトルコック（羽根つき遊び）に使われていたもの。この他にも古いラケット・シャトルなど所蔵している。

キーワード

バドミントン、スポーツ史、スポーツ指導、スポーツ統括組織、スポーツ用具

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 □ 学術調査 □ コメント ■ 共同研究